

2019年4-6月期GDP速報(1次速報値)

～ ポイント解説 ～

令和元年8月9日

内閣府経済社会総合研究所

国民経済計算部

[1] GDP成長率

2019年4-6月期のGDP成長率(季節調整済前期比)は、1次速報値において、実質は0.4%(年率1.8%)と3四半期連続のプラス成長となった。名目は0.4%(年率1.7%)となった。

[2] GDPの内外需別の寄与度

実質GDP成長率(季節調整済前期比)に対する内外需別の寄与度を見ると、国内需要(内需)は0.7%と3四半期連続のプラス寄与となった一方、財貨・サービスの純輸出(外需)は0.3%と2四半期ぶりのマイナス寄与となった。

[3] 需要項目別の動向¹

(1) 民間需要の動向

民間最終消費支出については、実質0.6%増と3四半期連続の増加となった。自動車や家庭用器具等が増加に寄与したとみられる。

民間住宅については、実質0.2%増と4四半期連続の増加となった。

民間企業設備については、実質1.5%増と3四半期連続の増加となった。供給側推計の基礎となる総固定資本形成の動きを見ると、建設等への支出が増加に寄与したとみられる。

民間在庫変動のGDP寄与度については、実質0.1%となった。実質の在庫残高の増加幅が2019年1-3月期から縮小(2019年1-3月期2.2兆円、2019年4-6月期1.8兆円)し、2019年1-3月期と比べた増加幅の縮小分(0.5兆円)がGDP成長率に対して寄与した²。

¹ 季節調整済前期比について解説。

² 実額はいずれも実質季節調整値(年率表示)。

(2) 公的需要の動向

政府最終消費支出については、実質 0.9%増と 2 四半期ぶりの増加となった。
公的固定資本形成については、実質 1.0%増と 2 四半期連続の増加となった。
公的在庫変動の GDP 寄与度は、実質 0.0%と横ばいであった。

(3) 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出については、実質 0.1%と 2 四半期連続の減少となった。企業向けサービス等が減少に寄与したとみられる。

財貨・サービスの輸入については、実質 1.6%増と 2 四半期ぶりの増加となった。原油・天然ガス等が増加に寄与したとみられる。

[4] デフレーターの動向

GDP デフレーターについては、季節調整済前期比で 0.0%となった。国内需要デフレーターは前期比 0.1%となった。外需デフレーターはマイナスに寄与した。

GDP デフレーターの前年同期比については、0.4%となった。

[参考]

[1] G N I (国民総所得) の動向

2019 年 4-6 月期の実質 G N I 成長率は、季節調整済前期比で 0.5% (年率 1.9%) と 3 四半期連続のプラスとなった³。海外からの実質純所得 (寄与度 0.1%) がプラス寄与となった一方、交易利得 (寄与度 0.1%) がマイナス寄与となった。名目 G N I 成長率については、季節調整済前期比で 0.6% (年率 2.3%) と 3 四半期連続のプラスとなった⁴。

[2] 雇用者報酬の動向

2019 年 4-6 月期の名目雇用者報酬は、前年同期比で 2.0% 増、季節調整済前期比で 0.9% 増となった。前年同期比については、雇用者数、一人当たり賃金がともに増加に寄与した。実質雇用者報酬については、前年同期比では 1.2% 増、季節調整済前期比では 0.7% 増となった⁵。

(以上)

³ 実質 G N I = 実質 G D P + 海外からの実質純所得 + 交易利得

⁴ 名目 G N I = 名目 G D P + 海外からの純所得

⁵ 実質雇用者報酬は名目雇用者報酬を家計最終消費支出 (除く持ち家の帰属家賃及び FISIM) デフレーターで除して算出した参考値。